

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2019年度（第2回）若手研究者奨励金 受賞者

権平 智

酪農学園大学 獣医学類 助教

〔研究課題名〕

ウシ乳腺の常在細菌叢は感染症の抵抗因子となりうるか？

－ 乳腺感染の新規防除技術を構築するために－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は2019年度 若手研究者奨励金をいただき御礼申し上げます。

今回の研究によって今後の獣医畜産領域、特に酪農業に関するウシの疾病制御につながる重要な基礎的知見を得ることができました。限られる研究資金の中でこのように自らが考え、小規模な研究室への研究費は大変貴重であり、このようなところから少しずつ科学が進展していくものと確信しております。

若手研究者への研究資金環境は大変厳しい状況となっておりますので、今回の奨励金は大変貴重な研究原動力となりました。社会への還元を見据えた基礎的研究も含めた研究への支援をこれからも何卒よろしくお願い申し上げます。

小山 貴博

函館大谷短期大学 こども学科 助教

〔研究課題名〕

イラン・イスラーム共和国における第1世代女性の子育て観
－女性達の言葉と環境に着目して－



寄付者の皆様へ〔御礼〕

「イラン」と聞いて、どのようなイメージを抱いていらっしゃいますか？

マスメディアを通じて、ネガティブなイメージが浸透しているのかもしれませんが、国内は極めて平穏で、かつ親日国であることは余り知られていません。今はドラマ「北の国から」が大ブーム！まさかイランで、ペルシア語の吹替版を観るとは想像もしませんでした。

今後は、地道な実践を通して、1人でも多くの方にイランの「本当の姿」をお伝えできるように、学術研究の世界のみならず、様々な場面にて、発信する力を付けていく所存です。

松山 寛

足利短期大学 こども学科 助教

〔研究課題名〕

外国に繋がる子ども達への絵本の読み聞かせによる身体動作
－ 幼児への母語及び日本語の絵本の読み聞かせ－



寄付者の皆様へ〔御礼〕

日本に既に300万人近くの外国人が住んでいて、この数値が増えることはあっても減ることは当面ないであろう。また日本で教育を受けた子どもは、日本に住み続けることが多い。この事実を考えれば、日本に住むこれらの子どもの教育は子どもたちの人権保護のために必要であると同時に、日本社会全体にとって重要な課題である。それにも関わらず、社会としてこの課題への取り組みはほとんど進んでいない状態である。

乳幼児への教育手段としての絵本の利用と言うのは以前から考えていたが、先行研究も少なくこれまであまり取り組むことができなかった。

今回この若手研究者奨励金をいただくことで、設備面を整え研究に取り組むことができた。今後とも、多様なルーツを持つ子どもたちを含む中での就学前教育の在り方を模索していきたい。

多大な支援をいただき、出資していただいた皆様に感謝いたします。

藤本 舞

明海大学 歯学部 助教

〔研究課題名〕

術前顎矯正に関与する因子の検討と光学印象法の確立に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

口蓋床を用いた術前顎矯正は、唇顎口蓋裂児における哺乳障害の改善だけではなく、口唇や鼻の形態異常、上顎歯槽形態の改善も目的として行われる。GPPを施行すると、学童期の歯列狭窄が少なく、顎発育への悪影響もないことが報告されている。さらに、歯槽部の連続性が得られていることから、二次骨移植の回避にもつながることを示す。このことは、患児の負担の軽減だけではなく、医療費の抑制にも役立つ。さらに、術前顎矯正開始前に歯槽形態改善の難易度が評価できれば、GPPの適用を含めた手術計画の立案や手術成績の向上に役立つと考えられる。

さらに近年、デジタル化が進み、歯科の分野においては、口腔内スキャナーによる光学印象が導入されている。唇顎口蓋裂患者の乳幼児に適応可能となれば、患児の嘔吐、誤嚥、窒息のリスクを軽減させることができ、患者、保護者の負担の軽減につながると考えられる。さらに術前顎矯正の治療結果に良い影響を与える可能性も含むと考えられる。

このように本研究は、唇顎口蓋裂の治療体系の確立を行い、唇顎口蓋裂患者への効率的な治療の提供に寄与し、今後の唇顎口蓋裂治療に大きな利益をもたらすと考えられる。今後も唇顎口蓋裂患者に対する臨床研究を継続して遂行いきたいと考えている。

本研究の意義をご理解いただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係各位ならびに奨励金をご寄付いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

磯野 貴之

学習院大学 理学部 助教

〔研究課題名〕

磁気熱量効果を用いた量子スピン液体状態の研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金の支援により、成果を挙げて、学术论文を発表することができました。
また、さらに大きな研究に繋がるきっかけを得ることに成功しました。
ここに厚く感謝いたします。

井上 朋子

北里大学 医学部精神科学 助教

〔研究課題名〕

血中不飽和脂肪酸の組成比のPTSD症状予防効果に関する研究
－救命救急搬送患者における縦断的観察研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回の研究には、将来的に

- ①世界で初めて、PTSDの予防方法が見出される、
- ②救急搬送患者、災害の被災者など、多くの被害者に対して、簡便、効果的に実施できる予防法が開発される、
- ③特に災害時には医療リソースが圧倒的に不足することが多く、血中脂肪酸値を調整した災害用の食料援助を考案することができれば、今後の災害時の「心のケア」対策において、画期的な貢献をすることができ、被災者の精神健康を改善し、復興支援につなげることが見込まれる。

というような価値を生み出す可能性があります。災害大国日本において、近年毎年のように起こっている災害時に、被災者のみならず支援者支援の一端も担うことができるかもしれません。自然災害だけでなく、事故や犯罪にまきこまれて、元来健康に生きてきた方々が、思わぬ理不尽な出来事に遭遇してしまったばかりにPTSD症状に長く苦しんでいる現状があります。そういった苦しみを味わう人たちをこれ以上増やさないように、PTSDに効果的な予防法や治療法が開発されることは大いに意義がある取り組みであり、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

伊藤 慎悟

上智大学 総合人間科学部 特別研究員

〔研究課題名〕

ループリック評価の提示の有無と学習行動の関連の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

学校教育現場においては、より良い授業を行うための研究に対する思いがあったとしても、日々の業務に追われ、金銭的・人的な資源が限られている中で実施することは困難である。

本研究では、実験の効果検討は行えなかったものの、それまで学校が取り組んできた研究を継承した上で実施し、共同研究の一つの在り方を良い形で示すことができたと考える。

本研究のような、アクションリサーチを行うことで、基礎研究においても理念上の理論にとどまらず、実践に耐えうる理論になると考えられる。個々人に対する介入では、どうしても実際に関われる人数が限られる。研究者として実践に耐えうる理論を作ることが、日々の授業の改善につながり、現場を通してより多くの人に関わることになり意義があると考えられる。

澤山 裕文

専修大学 法学部 助教

〔研究課題名〕

日米の会社法における会社情報の収集権に関する研究
－株主と会社の利害調整を中心に－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

現地調査から想像以上の貴重な収穫があり、今般の研究助成を得られなければ、そうした貴重な経験をする
ことができなかつた。

近年は海外の最新情報もインターネット等を通じて比較的容易に入手ができる状況にある。しかし、今回の
経験ができたことにより、海外での現地調査をする重要性を認識することができた。それゆえに今後も定期
的な現地調査が必要だと考えているが、いわゆる科研費の獲得も非常に困難であるため、こうした研究助成
がなければなかなか難しい状況にある。

それゆえに、今後も後進のために継続した支援をお願いしたい。

中塚 博子

東京農業大学 農学部 助教

〔研究課題名〕

生物的土壌物理性改良システムによる下層土の団粒化機構の解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、下層土に着眼した土壌の団粒構造の発達機構解明へのアプローチを行いました。こうした挑戦的な研究に奨励金を頂いたことをとても感謝しております。

本研究は、学術分野では基礎研究となりますが、本研究で得られた知見を基盤として、社会問題となる食糧問題や土壌劣化などの環境問題解決に向けて、さらに研究活動に邁進していきたいと考えております。

また、これまでの研究成果が得られたことは、本事業支援者の皆様をはじめ、これまでお世話になった、安心安全な作物生産に誇りを持って有機農業管理を実践してこられた農家の方々や、環境保全型農業の普及に尽力を注いでいらっしゃる研究者の方々の支援や激励があったからこそだと感じております。

さらに、東京農業大学着任後は、私よりも若い世代の学生達が、同じ志を持って、研究室を訪ねてくれる機会を持ち、大変嬉しく感じております。

今後とも、農業や土壌の研究から社会貢献できるよう尽力いたしますので、継続したご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

飯坂 洋平

東邦大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

新たに見出したP450酵素反応を利用した抗生物質生産系の構築

寄付者の皆様へ〔御礼〕

多剤耐性菌の蔓延が深刻な懸念となっているにもかかわらず、製薬企業の抗菌薬開発の撤退が相次いでいます。この原因として、抗菌薬の低い収益性やシーズ探索が困難であることが挙げられています。製薬企業にとって困難となる要因はまさにアカデミアが担うべき領域であると考えています。基礎研究で得られた成果は直ぐに新規抗菌薬の開発といった応用研究に繋がるものばかりではありませんが、学術的知見が積み重なって体系を成したときに新規抗菌薬の開発の大きな推進力になるものと思います。この点に理解を示していただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係各位並びに奨励金をご寄付いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

本奨励金により遂行した研究はまだ課題が多く残っておりますが、得られた知見を基に課題を解決することで新規抗生物質のデザインや生産法の開発に新しい展開を生み出すことができると考えています。このようなアカデミアからの基礎研究が社会的脅威となり得る多剤耐性菌を克服する一助になると考えておりますので、引き続きのご支援の程、宜しくお願い致します。

平屋 伸洋

明治大学 経営学部 専任講師

〔研究課題名〕

資本コストをベンチマークとした利益マネジメント
－趨勢変動する資本コストを用いた実証分析－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は日本私立学校振興・共済事業団の2019年度若手研究者奨励金の助成を受けたものである。

日本私立学校振興・共済事業団理事長の清家篤先生をはじめ、ご寄付をいただいた皆様への過分なるご支援に対して感謝と御礼を表したい。

貴重な研究成果を得ることができ、それを英文論文としてまとめることができたのも、こうしたご支援の賜物であると痛感している。

宮地 さつき

文教大学 人間科学部 講師

〔研究課題名〕

マルトリートメントへの予防的介入システム構築に関する研究
－就学移行支援としての5歳児健診に着目して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、貴重な奨励金を配当いただき、誠にありがとうございました。皆様のご支援により、予防的介入システム構築の糸口を図るという目的を果たすことができました。

子育て家庭や教育現場は、これまでも今も社会状況に翻弄されています。今般のcovid-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大に伴う休校要請もその1つです。結果として、児童虐待やDV(ドメスティック・ハラスメント)の増加が危惧されています。これまでいかに学校が福祉的な側面を担ってきたかを浮き彫りにしたと同時に、「教育は不要不急なのか」という問いを突き付けました。また、日本における子どもを取り巻く支援体制システムは、近年立て続けに改善されています。例えば、市区町村への専門職配置をはじめ、市区町村への子育て世代包括支援センターの設置、児童相談所における児童福祉司の増加、特別区への児童相談所設置など少しずつソフト面・ハード面での改善が図られています。そしてそのきっかけを創ったのは、まぎれもなく子どもたちの尊い命の犠牲があったからです。

私たちは子どもたちを取り巻く社会状況に敏感であり続けるとともに、子どもたちの犠牲の上に初めて制度改革が達成しているという現実を忘れず、せめてこれからの子どもたちには予防的に機能するよう監視し、必要があれば行政や社会に働きかけていく責務があります。私自身、その一助になれるよう精進いたします。

今後も継続的なご理解・ご支援を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

平本 貴史

自治医科大学 医学部 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

血液凝固第VIII因子産生細胞の同定および網羅的遺伝子解析
－血友病Aの新規遺伝子治療法開発に向けての基礎研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

再生医療に限らず、多能性幹細胞を用いた研究では、高効率、高純度で目的細胞への分化誘導が求められる。本研究助成により、FVIII産生細胞分化誘導に必要な因子の探索に必要な系の開発に成功した。

今後開発した系を用いて、FVIII因子を規定する因子の探索を行い、それを血友病に対する遺伝子治療に結び付けていきたいと考える。

酒井 郷平

東洋英和女学院大学 国際社会学部 助教

〔研究課題名〕

特別支援教育における情報モラル教育プログラムの開発と評価
ー ネット・コミュニケーションに着目してー

寄付者の皆様へ〔御礼〕

学校現場における情報環境の整備状況やスマートフォン利用率を勘案すれば、これからの社会を担う子どもたちにとって、インターネットは今以上に身近なものになっていくと考えられます。こうした動きは便利さをもたらす一方で、新たなトラブルを生み出すきっかけにもなります。この中で適切に生きていくためにも、子どもたちに情報モラルを身につけさせることは非常に重要になると考えます。

本奨励金では、微力ながらもこうした取り組みへの一助となる研究を行うことができました。この場をお借りし、ご支援いただきました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

吉本 真純

帝京平成大学 健康メディカル学部 助教

〔研究課題名〕

中学生野球選手の投球数増加による投球動作変化の予防



寄付者の皆様へ〔御礼〕

まず、本研究の意義をご理解いただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団およびご寄付いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

報告者は、成長期のスポーツ選手に対する障害予防を目的に研究を重ねてきました。研究を行うたびに疑問が生まれ、壁にぶつかりながら新たな課題を解決するために今も努力しています。本奨励金により遂行できた本研究により、また新たな疑問が生まれ、研究者としての基礎を築くことができました。上記のように研究を発展させ、研究者として、成長期野球選手、その保護者、指導者に対して還元していきます。

今後、成長期の野球選手が1日でも長く楽しく野球を続けられるよう、継続的なご支援をよろしくお願い申し上げます。

野田 龍介

関東学院大学 理工学部 助教

〔研究課題名〕

攪拌性能の観点から見た生物羽ばたき飛翔

寄付者の皆様へ〔御礼〕

羽ばたき飛翔の研究分野において、近年では空気中にのみに留まらず、水中・空中両用の小型羽ばたきロボットの開発も進められている。このようなロバスト性の高い小型ロボットは、携帯性・操縦性、また、羽ばたき飛行の突風などの外乱に対して有する高い飛行安定性などから、自然災害現場等で人が立ち入ることが困難な環境下における迅速な要救助者の情報収集などでの活躍が見込まれている。

本研究課題で行った攪拌槽内における空気と粘性の異なる作動流体下での生物を規範とした羽ばたき運動により生じる流れの理解は、発展的研究として考えられる上述の水空両用の統合型小型羽ばたきロボットの設計指針の導出に寄与する可能性も考えられる。

本奨励金により行った研究で得られた知見を幅広く社会に還元できるよう、攪拌装置に留まらず更なる発展的研究を見込んだ研究を進めていきたい。

中村 祐太

聖マリアンナ医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

糖尿病患者の甘味感受性が血糖管理に及ぼす影響の検討
－甘味感受性の改善は血糖を改善させるか－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

糖尿病患者さんのなかには、あらゆる理由から適切な食事療法を受けられない人がいます。今回の検討のように、味覚異常のため、過剰に糖質を摂取してしまう。自分で料理する技術や時間がなく、外食や調理済みのものに頼らざるを得ない。金銭的に困窮しており、食べられる食品に選択肢が少ない。など、様々な理由を抱えている人も少なくありません。

これら全ての糖尿病患者さんに、様々な食事療法の提案を行うために、これからもデータを出し続けられるよう努力致します。

今回のご支援は、研究成果を実臨床の糖尿病患者さんにfeed backする上で、資金としても、モチベーションとしても、とても貴重な糧となりました。改めまして、ありがとうございました。

門岡 晋

金沢星稜大学 人間科学部 助教

〔研究課題名〕

ストレス/リカバリー評価に着目した自己モニタリング技法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

「どうすればメンタルをトレーニングすることができるか？」という問いに対して、私の研究から言えることは、「観察・分析（Observation）、目標設定（Goal setting）、コミットメント（Commitment）」のサイクルを大切にすることです。どのような状況であれ、今の自身の現状を観察・分析し、課題を発見すればそれをクリアするための目標を設定し、発見することができなくても更に成長するためには何が必要かを考え、そうした過程から示される“ベクトル”にコミットしていくことです。

このようなセルフモニタリング技法によって産まれるOGCサイクルを試行錯誤しながら繰り返すことで、人は成長できるのだと考えています。そして、自己を観察する力（セルフモニタリング能力）を高めていくことが、様々な可能性を広げてくれることでしょう。友人や知人と自己開示をしながら話をしたり、日誌や手帳に自身の想いを書き留めたり、瞑想やヨガなどに取り組んでみたりすることもセルフモニタリング能力を高めることにつながります。

ぜひ、競技や日常生活を豊かにするために、「自分を観察する時間」をつくり、そしてそうした時間に労いの気持ちを込めて日々の生活を過ごしてみましょ。新たな可能性に気づく機会となるかもしれません。

高田 琢弘

東海学園大学 心理学部 助教

〔研究課題名〕

カジノ導入に伴う治安悪化懸念に及ぼす影響要因の解明



寄付者の皆様へ〔御礼〕

いわゆる「ギャンブル依存症」（正式名称：ギャンブル障害）は、米国精神医学会のDSM-5で、「本人、家族、および/または職務の遂行を破壊する、持続的で反復的な不適応賭博行動」と定義されている。一回のギャンブルに費やす金額やギャンブルに行く頻度などを自分自身でコントロールできる人もいれば、できない人もいるのが現状である。一人一人が過剰なギャンブルに対する予防法や治療法などの正しい知識を身につけ、ギャンブルの問題に苦しむ人が少ない社会になっていくことを祈っている。

福田 実奈

同志社大学 心理学部 研究開発推進機構 助教

〔研究課題名〕

手がかり誘発性渴望の客観的測定および消去可能性を探る
－古典的条件づけの役割に注目して－



寄付者の皆様へ〔御礼〕

皆さんは、やめたくてもやめられないことはありませんか？もしあるなら、やめられないことをご自分の「意志の弱さ」のせいだと思っはいませんか？行動分析学は、行動の原因を個人に求めるのではなく、環境との相互作用で生じているという考えの元、行動の予測と制御を目指している学問です。

今回のご支援により、依存症に悩む方々への対処方略へ一歩近づけたと考えております。

一見、社会の実用性という観点からは遠く見える研究テーマでも、ご支援をいただければ将来的に皆さんの生活に還元されていくと思います。

今後とも、未来ある研究者へのご支援をいただければ幸いです。

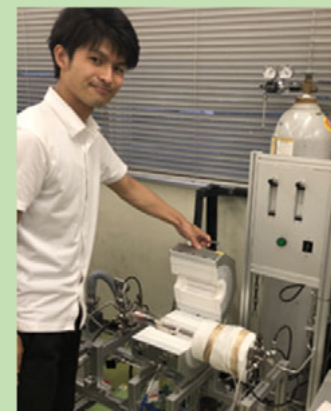
西村 昂人

立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 助教

〔研究課題名〕

化合物薄膜太陽電池の高性能化に関する研究

－相転移を利用した表面及び膜中損失低減技術－



寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究で開発した半導体成膜過程における急速冷却技術は、これまで困難であった半導体成長段階の詳細情報の取得や、新たな結晶成長法による物性制御など、エネルギー分野における新材料・デバイス開発に大きく貢献する可能性がある。

本研究は、提案者が助教として着任後に着想したものである。本研究支援を通じて、アカデミアでの研究生生活のスタートを切ると共に、本研究助成の若手研究者間での交流を始めとした研究ネットワーク構築の経験を経るなど、様々な視点や考察の仕方を学ぶきっかけとなった。

本研究をご支援頂いた関係の方々に深く感謝したい。

櫛原 克哉

東京通信大学 情報マネジメント学部 助教

〔研究課題名〕

学校教育における発達障害支援ネットワークに関する社会学的研究
－横浜市の取組を事例として－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

「発達障害」という言葉が人口に膾炙し、障害支援のための法律の施行や制度化、インフラの拡充が進んでいます。一方で、「発達障害」とされる子どもたちが、どのような学校生活を送っているのか、いかなる進路形成をしていくのか、実際にはどのような支援を受けられるのかといった点については、未だ未解明な部分が数多く残されています。

今回配布を受けた奨励金を通じて、文献研究や調査の実施を支障なく行なうことができたこともあり、2020年度科学研究費助成事業の科研費（若手研究）「公立小中学校教育における発達障害支援の実証的研究―「学校文化」の比較」（研究課題番号：20K13712 研究期間：2020年～2023年）に採択されました。

今後も学校教育の発達障害に関する研究に継続的に取り組み、発達障害を抱える人々にとって生きやすい社会づくりにつながるよう、研鑽に努める所存です。

三好 智子

武庫川女子大学 文学部 助教

〔研究課題名〕

描画動作における認知的方略と定量的評価法に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回頂きました奨励金により、描画動作の測定に必要な新たな課題を開発することができました。これにより、若年者の認知的方略による描画動作時の様々な測定変数の基礎的データを蓄積することができました。

若年者の描画成績の基準値を確立することは、子どもから高齢者までの発達特性あるいは加齢変化における描画動作の定量的評価に発展することができます。さらにその先には、幼児期や児童期の発育発達や身体的不器用さの早期発見と身体的不器用さを持つ若年者の検出に繋がり、それぞれの課題に対する支援の明確な方向付けになると考えています。

このような基礎的な研究にご支援頂いたこと心より感謝申し上げます。今後は、幼児期や児童期における身体の動きに現れる問題の原因を客観的に示す根拠となる発展的な研究へとステップアップし、その成果を社会に発信できるよう邁進していきたいと思います。

萩原 加奈子

兵庫医療大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

カルシニューリン阻害薬との合成致死剤のケミカルゲノミクス研究
－新規抗真菌活性物質の探索研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

真菌はヒトと同じ真核生物であるため、これまでの抗真菌薬は、ヒトには存在しない細胞壁合成酵素やエルゴステロールをターゲットとし、使用される種類は限られている。

本研究での発見をもとに、農作物生産、環境衛生、医療、食品領域における真菌感染や真菌汚染の脅威に貢献できるよう今後も研究活動に励みたい。

浅枝 麻夢可

神戸常盤大学 短期大学部 口腔保健学科 助教

〔研究課題名〕

呼吸機能の訓練の有効性に関する研究

－気管支喘息の既往がある者の場合－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究は、申請者の過去の研究活動から得られた経験や、現在の教員としての立場から着想に至ったテーマであり、歯科とはやや離れた分野だったので、とても不安でした。類似したテーマでの申請が不採用になったこともあり、やや諦めかけていたのですが、本奨励金の採用をいただき、研究者としての大きな自信に繋がりました。

今後の研究活動の新たな道筋を作ってくださった、日本私立学校振興・共済事業団ならびに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

今後も、いまの自分にしかできない発想を大切にして、真摯に研究に取り組んでいきたいと思っております。

山下 晋平

宇部フロンティア大学短期大学部 食物栄養学科 助教

〔研究課題名〕

幼児期における食文化伝承を目指した知育玩具の提案

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本奨励金によって得られた成果は、日本における1地域の1料理であるが、作成した玩具(絵本及び木製玩具)は、保育者から項目別評価において高い評価が得られただけでなく、絵本については、幼児からも「面白かった」といった評価が得られた。この成果を学会発表・論文投稿などで普及させ、各地域における知育玩具等の教材を開発することで、幼稚園及び保育所における食育を今以上推進することができれば、幼児の郷土料理及び郷土への興味が向上すると考えている。それだけでなく、食や料理への関心が高まることにつながり、幼児の健全な食習慣の形成が期待できると考えている。

本奨励金に採択されたことにより、幼児が食や食文化に対して興味・関心をもてる知育玩具の創造・提案に挑戦し、木製玩具を通じた教育に可能性を見出すことができました。作成した玩具の評価に協力をいただいた幼稚園・保育所をはじめ、本研究にご協力いただいたみなさまに改めて感謝申し上げます。

田村 孝洋

中村学園大学 教育学部 助教

〔研究課題名〕

体育授業におけるICT活用とプログラミング的思考の相互作用
－ 走動作の数値化・可視化が及ぼす効果－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

教育は、社会において生きていく為に必要な術を身につけさせるための活動であり、学校はそれらを学ばせる重要な役割を担っていると言えます。本研究は、この教育分野に関して体育科教育の果たす役割や自身の研究についての社会的意義を改めて見つめ直す機会となりました。体育科教育のねらいは、生涯にわたって運動やスポーツに親しむのに必要な素養と、健康・安全に生きていくのに必要な身体能力、知識などを身に付けることにあります。けれども、特に、幼少年期の体育授業において運動が苦手という劣弱意識を抱くことをきっかけに運動嫌いになる子どもは多く、青年期以降の健康的な運動習慣の獲得を阻害する課題の一つと言えます。そのため運動習慣の獲得には、幼少年期の肯定的な教育や経験が必要です。体育科教育を今後さらに発展させることは、人生100年時代と言われる健康社会を実現するための一助になると考えることができます。

若手研究者にとって研究費を支援いただき、本当に自身の関心に合った研究ができる機会は多くはありません。

今回、本研究を遂行するにあたり研究奨励金をご支援いただいた日本私立学校振興・共済事業団および関係者各位に心より感謝申し上げます。

鈴木 喬

九州共立大学 共通教育センター 講師

〔研究課題名〕

古代人名における国語学的研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

新しい年号である「令和」の出典が『万葉集』であったことから、2019年度において『万葉集』が出版業界を中心に脚光をあびることとなった。一方で「『万葉集』とはなんぞや」と概説的なことに留まり、『万葉集』の歌が詠まれた時代の言語がどのようなものなのか、と踏み込んだ内容に至ることはなかった。文学作品も日常役人が記す行政文書も、言語の営みで行われた結果である。資料が記された時代における言語の実態解明なくして、本質的な理解に届くことはない。

日本語研究における文字・表記の研究は近年増えてきている。文字を記すという言語行動は、文学研究・歴史学研究ともに対象とする資料に共通する。言うまでもなく文字が記されていない文献資料はありえない。また記される材料や出土する場などを含めれば考古学とも関わりをもつ。そのため文字・表記研究は日本語研究におけるどの分野よりも学際的研究の親和性が高い。7・8世紀を対象とすることは、もとより学際なくして研究は成り立たない。

様々な知見を駆使し、真理に近づく。これほど面白い分野はない。研究成果における社会への有益性はもちろんだが、研究の面白さを発信すること、研究のイマを理解していただくこと、これが大切だと思う。

高口 恵美

西南女学院大学 保健福祉学部 講師

〔研究課題名〕

子どもの「生活力」を高めるグループワークプログラム
－生活環境に左右されないスキルを身に着ける－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

子ども達との交流を通して互いの可能性に気づくことによって、大人も考え方や視野が広がり、自身の事業に活かされ、また生活が豊かになっていく。

多様性を受け入れ、ヒエラルキーから解放された対等な関係性の中で行われる「対話」こそが、現在のメンタルヘルス課題を解決する一つの鍵となるのではないと考える。

藤野 正和

長崎短期大学 保育学科 講師

〔研究課題名〕

乳幼児期における他児との笑い合いの発生プロセスの解明

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回の研究は、重症心身障害児・者との関わりの中で得られた経験と保育現場における観察から問題意識をもったものである。意思表示をすることの困難な障がい児・者と、他者にことばで思いを伝えることの難しい乳幼児は、関わり手から理解が不可欠である。

今回の研究を通じて、実際に起こっている現象を的確に読み取り、客観的に分析していくことの重要性を再認識した。今回の研究を支援してくださった方々に感謝を申し上げますとともに、今後さらに研究を深めていきたい。

上向 輝宜

志學館大学 法学部 講師

〔研究課題名〕

民事鑑定の積極的活用策に関する検討

－知的財産訴訟を中心として－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

近年、科学の発展が急速に進み、私たちの生活をめぐる状況は大きな変化を見せています。多くのロボット、人工知能、AIと呼ばれるものの登場もその一つです。今回は、人工知能に着目し、人工知能に関連する情報の範囲をその保護という視点から検討し、それを裁判でどのように扱うのか、という問題について、その端緒となる研究を行うことができました。

今回の研究を通じて、現在世間で注目を集めている人工知能だけではなく、陰ながら私たちの生活を支えてくれている人工知能まで、多くの人工知能が、私たちの生活に密接に関係していることを詳しく知ることができました。

今回の支援金によって、裁判と人工知能の取扱いという、将来必ず訪れることが予想される問題について、多くの知見と研究課題を得ることができました。心よりお礼申し上げます。